

「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」 中間評価結果

大学名	東北大学
-----	------

(総括評価) A	これまでの取組状況を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
--------------------	--

(コメント)

東北大学は、本事業を“Future Global Leadership”プログラムと位置付け、地球規模で活躍する指導的人材の育成・輩出を教育目標・理念とする「アクションプラン（井上プラン）」、国際共同研究の推進、外国人教員受入れ環境の整備、国際化へのネットワークの構築等の実現を図る「中期目標・中期計画」に基づき、大学の国際化に向けた取組みの成果を着実に上げつつある。

多くの部局ではそれぞれの分野で著名な外国人教員を招聘し、教員間の交流を図ると共に、公募制の活用により国際的に実績のある外国人教員・日本人教員の採用に努めており、複数の部局において国内外の教員を招いて、教育に関する教員の資質向上を図るFDを実施している。

日本人学生と留学生を区別しない教育を目指し、留学生に関する一元的な支援体制の強化を図る体制整備を行っている。職員採用時に英語の試験・面接を課すと共に、語学に堪能な事務職員の増強を図るために、職員語学研修（英語・中国語）を実施しており、事務職員の国際化に対する意識向上のために、国際化施策に関する諸課題につき役員・教職員間で意見交換が行われている。

大学の国際化への取組等について、グローバル30プログラムの外部評価、欧州大学協会機関別評価等を受審し、実施状況に対して高い評価を得た。本プログラムの企画・実行・見直し・改善については、グローバル30実施委員会が毎月開催され、検討が行われている。

ダブルディグリープログラムや単位互換プログラムについて拡充が図られると共に、交流協定及び短期海外研修による学生派遣も積極的に実施されている。但し、海外派遣学生数は設定された目標値を下回っており、新規プログラムの開発、情報提供等の対応に工夫が望まれる。なお、受入留学生数、外国人教員の採用数は目標値を上回る実績があがっている。

学部の英語コースは3つの学部に設置され、平成23年10月より新入生を迎えた。大学院では、英語だけで学位を取得できるコースが、平成24年10月開設予定の基礎医学、ネットワーク医学のコース及び既設の3コースを含め、13コース設定された。今後の安定的な展開が期待される。

海外拠点としては、米国、中国に引き続き、インドネシアにサテライトキャンパスが設置されると共に、モスクワ大学内に設置されたロシア海外大学共同利用事務所も活用されている。なお、東日本大震災は国際化にも多大の影響を及ぼしたが、各地の留学フェアで災害復興状況の積極的な説明を通して、徐々に理解が得られつつある現状が確認できた。